

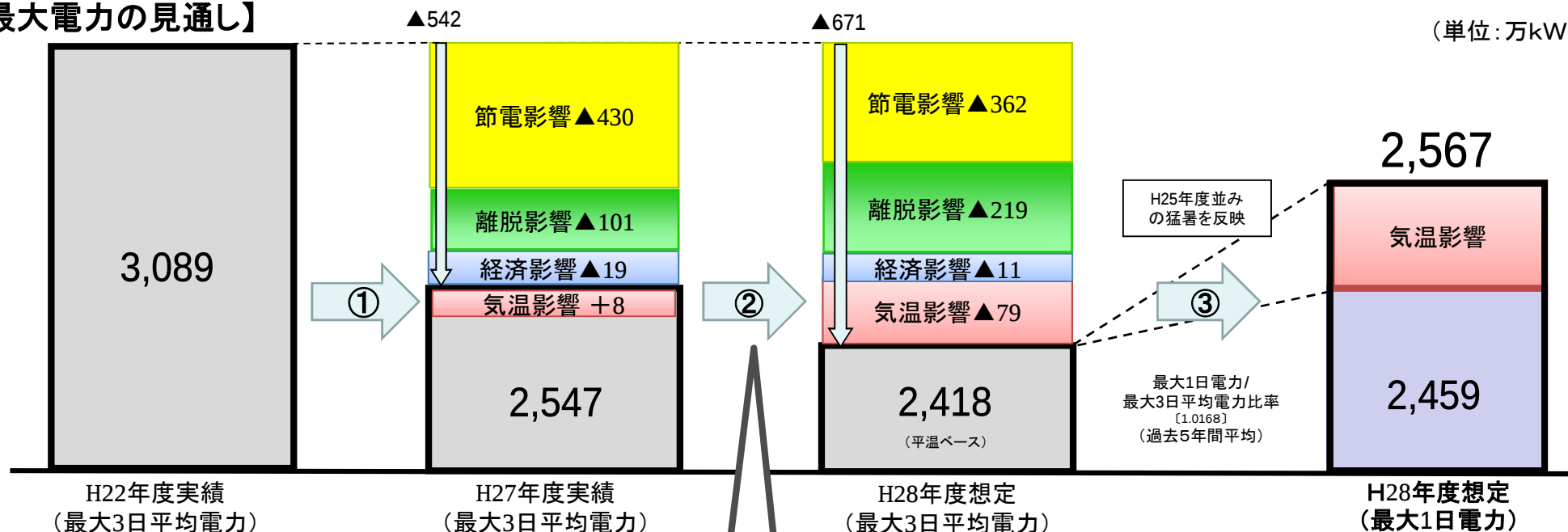
今夏の需給見通しの見直しについて

平成28年4月22日
関西電力株式会社



今夏の最大電力想定の方

【最大電力の見通し】



【②-1:節電影響の見通し】

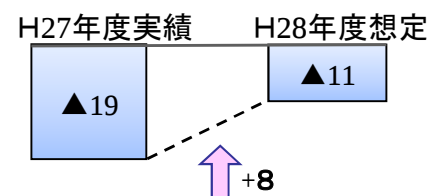
<節電アンケート結果(H28.2実施)>

(単位: 万kW)

	H27年度 節電実績 (a)	節電アンケート結果		H28年度 節電影響 (a) × (b)
		節電継続率 (b)	サンプル数	
大口	▲188	82%	484件	▲154
小口	▲133	85%	341件	▲113
家庭	▲109	87%	1071件	▲95
計	▲430	84%	1896件	▲362

【②-2:経済影響の見通し】

(単位: 万kW)



(参考)

最高気温 (H25)	36.6℃
基準気温	35.2℃

※各気温は累積5日気温

- ①: H27年度における節電影響、離脱影響、経済影響、気温影響をH22年度実績と比較して算出しています。
- ②-1: 今夏の節電影響は、至近のアンケート結果に基づいた大口、小口、家庭別の節電継続率により、▲362万kWと想定しています。
- ②-2: 今夏の経済影響は、リーマンショックから大きく景気が回復したH22年度と比較すると依然としてマイナスであるものの、今後の景気拡大を織込み、H27年度と比べ+8万kWとなる▲11万kWと想定しています。
- ③: H25年度並みの猛暑を反映した今夏の最大1日電力は、最大1日電力/最大3日平均電力比率(過去5年間平均)を用いて、2,567万kWになるものと想定しています。

今夏の需給見通し(8月)

2

(単位: 万kW)

	H27年度 想定①※1	H28年度 想定② (4/8公表時)	H28年度 想定③ (4/22公表時)	差分 (③-①)	【参考】差分 (③-②)	備考(③-①について) (凡例) ☆ 計上の考え方 ○ 昨夏との差分
供給力-需要 (予備率)	84 (3.0%)	175 (6.8%)	211 (8.2%)			
需要	2,791	2,567	2,567	▲224	0	☆H25年度並み猛暑を想定、○H27年度節電実績等を反映(▲224)
供給力(合計)	2,875	2,742	2,778	▲97	+36	
原子力	0	0	0	0	0	☆稼働していない原子力は、再起動がない場合として計上しない
水力	212	213	213	+1	0	☆天候によらず安定的な供給力として下位5日の平均から算定
火力	1,623	1,612	1,642	+19	31	☆姫路第二発電所 蒸気タービン不具合からの復旧 ○新5号機(+41)、新6号機(+9)、定格出力増(+4)、 環境協定※2(▲12) ☆必要な補修を実施(震災特例の適用なし) ○相生3号機定期点検(▲23)
揚水	376	346	351	▲25	6	☆想定需要とベース供給力から算定 ○奥多々良木1,2号機可変速化工事他(▲25)
新エネ	0.3	0.3	0.3	0	0	
他社・融通	663	571	571	▲92	0	☆太陽光は高需要発生日の下位5日の平均から算定 ○固定価格買取制度による至近の普及状況等による増(+25)
他社	580	590	590	+9	0	☆必要予備力を確保できるよう調達を計画 ○自家発からの調達減(▲15)
水力・揚水	68	68	68	0	0	○応援融通受電量減 (計▲82)
火力	430	415	415	▲15	0	○中部電力▲29、中国電力▲38、北陸電力▲10、四国電力▲5)
新エネ	82	107	107	+25	0	○新電力からの調達減等(▲20)
融通等	83	▲19	▲19	▲102	0	

※1:「H27想定」はH27.6.10公表の需給見通し見直し時点の数値。

※2: 環境保全協定値の範囲内で運用するため計画的に出力抑制を織り込み

<四捨五入のため合計が合わないことがあります。>

○今夏は、想定需要2,567万kW(1日最大電力・H25年度並みの猛暑)に対して、震災特例の適用による火力の法定点検の繰り延べや他電力から応援融通を見込まずに、電力の安定供給に必要な予備率を確保できる見通しです。

今夏の需給見通し

※()内は、見直し前(平成28年4月8日プレス発表時)の数字。

(単位: 万kW)

	7月	8月
需要	2,567	2,567
供給力	2,778 (2,745)	2,778 (2,742)
予備力	211 (178)	211 (175)
予備率	8.2% (6.9%)	8.2% (6.8%)

供給力内訳	原子力	0	0
	水力	232	213
	火力	1,634(1,601)	1,642(1,612)
	揚水	351	351(346)
	新エネ	0.3	0.3
	他社・融通	561	571

※四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

※下線部は、平成28年4月8日プレス発表時からの変更点。

○今夏は、需要の減少が一定程度見込まれることなどから、猛暑（平成25年度並み）を前提とした場合であっても、震災特例の適用による火力の法定点検の繰り延べや他電力からの応援融通を見込まずに予備率は8.2%となり、電力の安定供給に必要な予備率を確保できる見通しです。

○震災以降、皆さまに多大なご迷惑をおかけしてまいりました節電のお願いによるご負担を軽減させていただけるよう、当社といたしましては、火力・水力プラントの計画外停止の未然防止等に努め、供給力の確保に万全の準備を整えてまいります。